

JR三島会社・JR貨物と中長期経営方針等について意見交換！

「JR三島会社・JR貨物経営安定化PT」「貨物鉄道モーダルシフトPT」の第2回会合を開催

JR連合は、3月1日、参議院議員会館において第2回「JR三島会社・JR貨物経営安定化プロジェクト」「貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト」会合を開催し、JR北海道、JR四国、JR九州、JR貨物の4社から中長期の経営方針等の説明を受けた後に、忌憚のない意見交換を行った。

会合には、両プロジェクトの座長である小川淳也衆議院議員、榛葉賀津也参議院議員と鉄道特性活性化PT座長の三日月大造衆議院議員、アドバイザーの正司健一神戸大副学長、竹内健蔵東京女子大教授に加え、関係単組役員、JR連合役員らが参加した。



冒頭坪井会長より、「国鉄改革から四半世紀経過したが、JR三島会社・JR貨物の経営安定化は道半ばである。労働組合の立場から、安定化にむけて政策提言を行っていく」と抱負を述べた。

続いて、小川淳也衆議院議員は「地域の足を担うJRの将来像、あるべき姿を本PTで提言していきたい」と、榛葉賀津也参議院議員は「将来の安定経営に向けて中長期の経営計画をしっかりと議論したい」とそれぞれ挨拶した。

その後、JR三島・JR貨物の各社からは、特例業務勘定の支援策を活用した各種施策や収入増加策、経費削減の方策といった中長期経営方針、さらに今後の収支見通し等について詳細な説明を受け、出席者相互で忌憚のない意見交換を行った。

なお、今後のPTの方向性については、労働組合員の視点に立った政策立案とし、取り巻く現状把握や将来予測を行いながら、短中期的視点、長期的に立った政策立案をそれぞれ行い、最終答申を策定していくことを確認した。

JR連合は、JRの代表産別の視点から、JR三島会社・JR貨物の経営安定化そして鉄道貨物へのモーダルシフトにむけて精力的に取り組みを進め、JRに結集する労働者の働きがいのある労働環境の構築に向けて、今後も積極的に問題提起を行っていく。

第2回JR三島会社・JR貨物経営安定化 貨物鉄道モーダルシフトPT

